

小学校中学年 ～高学年向け 年 組

(2022年7月18日付・下野新聞20面)

合戦場郵便局長 漆原さん

国学院栃木中で「手紙」授業10年

手書きの良さを伝える

【栃木】都賀町合戦場の合戦場郵便局長、漆原康史さん（48）は10年間、国学院栃木中で手紙の書き方を教える出前授業を続けている。メールや無料通信アプリLINE（ライン）がコミュニケーション手段として定着する中、手書きで文字を記すはがきや手紙の良さを地元中学生に伝えている。漆原さんは「相手を思いながら、自筆で書くことの大切さを伝えたい」と話している。

（橋本裕太）

漆原さんは約30年前に国学院栃木高を卒業。同中学・高校の青木一男校長は高校時代の恩師で、卒業後も親交が続いていた。同窓会

業生が郵便局を訪れ、授業の思い出話で盛り上がったこともあったという。10年目を迎えた8日は、1、2年生を対象に暑中見舞いの書き方を講義した。自作の教材を使い、宛名の書き方や季節のあいさつ、伝えたいメッセージの書き方を説明した。中学生は祖父母や小学生時代の恩師らに向けて思いの言葉をつづった。1年の石田旭さん（12）は「普段はライ

ンでやりとりすることが多いが、手書きは相手を思っている。親以上の世代は書くことが大事だと感じたと話した。漆原さんは母校の都賀中でも5年前から出前授業を実施し、3年生が「未来の私にエール」をテーマに3年

【4】もしあなたなら、だれに手書きの手紙をおくりたいですか。また、どんなことを伝えたいですか。

〈おくりたい相手〉

〈伝えたいこと〉

設 問

【1】郵便局長の漆原さんは、どこで、どのような取り組みをしていますか。リード文の言葉を使ってまとめましょう。

【2】漆原さんが考える「手書きの良さ」とは何でしょう。記事の中の言葉を使ってまとめましょう。

【3】あなたが考える「手書きの良さ」とは何でしょう。自分の考えをまとめましょう。

手紙の書き方を教える漆原さん

